

## 結果の概要 小学校理科

### 全体的な傾向

- 昨年度と類似の問題については、改善がみられるものがあるものの、依然として課題がみられるものが多い。
- 第4・5・6学年ともに、比較・観察、実験結果からの考察などの「科学的な思考力」に課題がみられる。
- 選択問題に比べ、記述・論述の問題に誤答や無答が多い。

### 1 出題のねらい

- ①過去2年に引き続き、観察、実験、飼育、栽培などの学習活動を通して育成すべき学力を把握するため、基礎的・基本的な内容に絞って出題した。
- ②過去2年間に出题できなかった内容について出題するとともに、類似問題も出題した。
- ③思考力、判断力、表現力をみるため、記述・論述式の問題を増やした。
- ④第5・6学年は課題選択の内容があるので、その内容の選択問題を出題した。

### 2 学年別結果の概要

#### 【第4学年】

内容領域	正答率
3年「生物とその環境」	70.3%
3年「物質とエネルギー」	62.5%
3年「地球と宇宙」	69.7%
4年「生物とその環境」	42.3%
4年「物質とエネルギー」	67.1%
4年「地球と宇宙」	65.6%

#### 【第5学年】

内容領域	正答率
3年「地球と宇宙」	59.3%
4年「生物とその環境」	71.6%
4年「物質とエネルギー」	60.2%
4年「地球と宇宙」	52.6%
5年「生物とその環境」	64.3%

#### 【第6学年】

内容領域	正答率
5年「生物とその環境」	47.7%
5年「物質とエネルギー」	54.4%
5年「地球と宇宙」	60.4%
6年「生物とその環境」	54.6%
6年「物質とエネルギー」	66.0%

評価の観点	正答率 (%)		
	4年	5年	6年
自然事象への関心・意欲・態度	63.0	56.5	56.9
科学的な思考	68.4	55.2	54.1
観察・実験の技能・表現	58.5	66.8	62.0
自然事象についての知識・理解	68.0	61.5	54.3

### 3 今回のテスト結果からみた特徴

- 学年別結果の概要から、第4学年では、第4学年の内容領域「生物とその環境」の理解度に低い状況がみられる。第5学年では、第3・4学年の内容領域「地球と宇宙」の定着度に低い状況がみられる。また、第6学年では、第5学年の内容領域「生物とその環境」「物質とエネルギー」の定着度及び第6学年の内容領域「生物とその環境」の理解度に低い状況がみられる。評価の観点別正答率から、第6学年の「科学的な思考」「自然事象についての知識・理解」の正答率に、特に低い状況がみられる。

#### ○正答率が高い状況にある問題

- ・第4学年「温度計の適切な操作」5(3)、「光電池に当てる光の強さと流れる電流の強さ」8

(2)

- ・第5学年「水を凍らせるときに使う寒剤」3(3)、「植物の成長と季節」10(1)(2)(3)
- ・第6学年「インゲンマメの発芽の条件」1(2)、「メスシリンダーの適切な操作」5(1)(2)

#### ○正答率が低い状況にある問題

- ・第4学年「昆虫のからだのつくりと自分たちの体のつくりとの関連」1(3)  
「季節による動物の活動や植物の成長」10(1)(2)

- ・第5学年「太陽、月、星の動き」2(1)(2)②、「水を熱したときの温度変化のグラフ化」3

(2)

- ・第6学年「川の様子を実験結果と関係づけて考察」10(1)  
「カボチャの花のつくりや受粉と結実」13(1)①②(2)(3)

#### ○昨年度の類似問題と比較して改善がみられるもの

- ・第4学年「昆虫のあしのつき方」2、「太陽の一日の動きと日かげの位置」4(1)(2)(3)

- ・第5学年「閉じこめた空気と水に力を加えたときのかさの変化」4(2)

- ・第6学年「天気の変化についての規則性」7(1)、「気温の調べ方」8